

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	伊東もえぎ			
○保護者評価実施期間	令和7年 10月 15日 ~ 令和7年 10月 28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数)	22
○従業者評価実施期間	令和7年 10月 15日 ~ 令和7年 10月 28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 11月 18日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日々の活動が充実していること (戸外の自然を生かした活動が出来る 徒歩にて利用できる公園があること)	<ul style="list-style-type: none"> 個の特性や現状に合わせた活動内容や季節を意識させた内容を取り入れている。（同じ活動内において個をピックアップしてその子に応じた目標達成を目指している。） 利用者の現状を把握し、グループ分けにて活動を行い満足度を上げる。毎日違う活動を取り入れて飽きないようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動のバリエーションを増やす。 (公園を利用したウォークラリーなど屋外アクティビティの企画) 雨の日のプログラムを充実させる。 外部の方の取り組みを参入する。 利用者主体の活動や意見を取り入れていく。
2	保護者に寄り添った対応	<ul style="list-style-type: none"> 日々の活動の様子を写真やメッセージにて保護者へ毎日送信、送迎時にも様子をお知らせしたり、不安や悩みが伺えるときには話を聞く機会を設け、一緒に考えたりして解決策を講じている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者参加型の企画や保護者の意見を聞く場を設ける。 利用者の成長が見られたことなど可能な限り意識して伝えしていく。保護者と思いを共有した支援を行っていく。 相談事や悩みにいつでも対応できる体制を作り、保護者へ周知していく。
3	職員間の連携が取れている	<ul style="list-style-type: none"> 日々のカンファレンスにて気付いたことを検討する機会を作り、日々の不安や疑問を解決し方向性を同じくして支援を行っている。 職員間で声をかけたり動きを把握しながら柔軟な対応を行なう。 欠席した職員にも情報を共有できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務及び支援中、ともに声を掛け合い協力する。 負担が偏り過ぎないようにする。 成長や成功を共有していく。 利用者の様子や支援内容など、より充実した内容を伝えていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の人員不足	<ul style="list-style-type: none"> 募集要件に見合った応募者不足 利用率を上げて職員を補充してもらえる状態にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務分担、支援方法、活動の進め方を工夫する。 (グループでの支援を工夫していく。) 職員の体調管理に務める。 施設アピールをして職員の応募を増やす。
2	職員のスキルアップ	<ul style="list-style-type: none"> 一部の職員に業務を頼ってしまっている。 対応の難しい利用者へのかかわり方が難しい。 活動の進め方の工夫が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部研修・法人内研修に参加する機会を設けていく。 カンファレンスにて意見交換を活発にし、共通認識をもつ。 活動の場にて職員同士が情報交換を行い、スキルアップを図る。
3	利用者の欠席率の高さ	<ul style="list-style-type: none"> 放デイを休んでも利用者が家庭にて一人で過ごすことの出来る。 利用者本人及び家族の体調不良が多い。 当日欠席、行きしづりが多い。 放デイの必要性を感じていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者及び保護者に放デイの必要性を感じてもらう。 魅力的なプログラムや本人のモチベーションとなるような活動を準備する。 欠席の振り替えを積極的に提案する。 欠席の多い利用者の利用の仕方を考えていく。 現状を保護者に伝えていく